
UNMAKE 行列 系列のリスト ;
 あるいは
 UNMAKE ベクトル スカラーのリスト ;

機能 :

UNMAKE は行列をとり、それを列毎に分割しいくつかの系列とします。行列は現在のサンプルの観測値数に等しい行の数と、分割された系列に等しい列の数からなっています。同様に、UNMAKE はスカラーの数がベクトルの長さに等しいなら、ベクトルをいくつかのスカラーに分割します。UNMAKE は MMAKE の逆になり、それは系列から行列を、あるいはスカラーからベクトルを作ります。

使用法 :

UNMAKE の最初の引数は分解される行列名です；二番目は行列の列となる系列名のリストです。系列数は、引数リスト (通常約 100 以上) の最大サイズと新しい行列に対してデータ領域で利用できるスペースによってのみ制限されます。

名前のつけられた系列は既に存在する場合は置き換えられます；もし NOREPL オプションを用いていれば、現在のサンプル外の観測値は削除されます。新しい系列は現在のサンプルの期種と最初の観測値を持ちます。

分解される行列はどんなタイプでも構いません；UNMAKE が実行される前に拡大されます。このルールの例外は対角行列の場合です – もし現在のサンプルの長さが対角部分の長さに等しく、ただ一つの系列名だけがあたえられている場合は行列の対角部分がこの系列に保存されます。

UNMAKE はまたベクトルをスカラーに分割するのに使うことが出来ます；これは係数ベクトルを並べ変えたり初期値ベクトルをセットするのに有用です。これは、いくつかの SET ステートメントや巧妙な DOT ループを使うより簡単です。

例 :

現在のサンプルが SMPL 1 5 で、次の要素を持つ 5×2 行列 X があります：

```

1   9
2   8
3   7
4   6
5   5
```

コマンド

```
UNMAKE X X1 X2 ;
```

で、つぎの 2 系列が保存されます。

```

X1   X2
1     9
2     8
3     7
4     6
5     5
```

行列内の任意の部分行列は、一つのサンプルの下で行列を分解し、別のサンプルの下で再構成することでも得られます。例えば、 10×10 分散行列で、3 番目、4 番目、5 番目の変数の新しい分散行列は次のようにして抽出されます。

```
SMPL 1 10 ;
UNMAKE VAR COL1 COL2 COL3 COL4 COL5 COL6 COL7 COL8 COL9 COL10 ;
SMPL 3 5 ;
UNMAKE VAR35 COL3 COL4 COL5 ;
```

これはベクトルでの UNMAKE の例であり、SDIAG という名前の系列で分散-共分散行列の対角部分を得ます：

```
OLSQ Y C X1-X6;
UNMAKE @COEF B1-B7;
MFORM(TYPE=DIAG) VCOVD = @VCOV;
SMPL 1,7; UNMAKE VCOVD SDIAG;
```

アウトプット：

UNMAKE はプリントアウトはありません。一組の系列(またはスカラー)がデータ領域に保存されます。